～研修医日記～

Vol.5　『1000 万円級のカンファレンス』　―無礼講専修医編―

緊急事態宣言発令中で外出自粛等により不自由な生活を強いられている5月のとある日の術前検討会の風景・・・・・・

無礼講専修医:「次の症例です。〇〇　△△さん、82 歳男性の方で、20〇〇年△月△日に腹腔鏡下Ｓ状結腸切除術を予定している方です。主訴は血便です。現病歴ですが・・・」

当院外科では、週 1 回、術前検討会を施行している。術前の患者に対して現病歴、既往歴、術前の検査所見、問題点などを全員で詳細に検討し、より安全な手術が行えるように議論が行われている。
症例を発表するのはもちろん若手外科医。部長はもちろん、全員の先生の眼差しを一手に受け、しんと静まりかえった空気の中発表するため、毎回緊張しながら挑んでいる。特に画像所見のプレゼンについては多々鋭いツッコミが入るが、ツッコまれるとボケたくなる性分を抑えつつ、毎回タジタジになりながら打ちのめされている・・・・・・💦💦💦

無礼講専修医:「続いて血液検査です。肝機能,腎機能は特に問題なく、電解質異常や凝固能にも問題はありません。凝固能も正常範囲内です。貧血も問題ありません。
しかし、入院してからなぜか白血球と CRP が上昇してきており・・・。」

上級医:「お～～・・・、それは感染症やないかい。その特徴は完全に感染症やなぁ～。」

無礼講専修医:「しかしわからないことがありまして・・・。」

上級医:「なにがわからへんのよ～～？」

無礼講専修医:「それが、僕も感染したのかと思ったんですけど、うちのオカン・・・じゃなくて培養検査室の人が言うには、培養結果は全て陰性らしいんですよ～・・・。」

上級医:「あー、ほな感染症と違うかぁ～。」

無礼講専修医:「？！？！？！？！　しかし先生、その後一応抗生剤を投与したら、数日で患者さんの症状が良くなってきてるんですよ～。」

上級医:「ほな感染症やないかい！！そんなん抗生剤を投与して良くなったっていう患者さんは、感染症の人か、三度のメシよりも抗生剤が好き～❤ っていう患者さんのどっちかやからな～！　他にもうちょっとなんか情報なかったん？」

無礼講専修医:「そういえば、うちのオカ･･･じゃなくて、感染症内科の先生が、これは感染症ではないです、って言ってました。」

上級医:「ほな感染症とちゃうやないか～～い！！！💢💢💢」

このように、当院外科は真剣なカンファレンスの場でもユーモアと笑いを決して忘れない職場なのである。
それにしても、カンファレンスの数日前に放送された M-1 グランプリで優勝したネタを、早速持ち込んでこられた上級医の先生ってスゴいよなあ～～～！！。

【変集者後記】
なかなか和やかな術前検討会の風景である。
しかしこの研修医、上級医にたいそう感服しているようだが、何を隠そう自分からしっかりネタ振りをして、まんまと上級医が乗せられているように感じるのは私だけであろうか？
もしかしたら、普段のカンファ中の鋭いツッコミに対し、一度はボケてみたいという欲望がこういう形になって現れたのであろうか？　（ツッコミとボケの意味を取り違えているようだが･･･💧💧）
いずれにせよこのパターンのやり取りは、カンファ中でも手術中でも、ひいては日常のあらゆるシーンにでも応用出来る可能性があることを考えると、1000 万円級のネタと言っても過言ではないかもしれない。